

## 平成30年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	原始惑星系円盤形成領域の化学組成とその進化
研究代表者	山本 智 (東京大学・大学院理学系研究科・教授) ※平成30年7月末現在
研究期間	平成30年度～平成34年度
コメント	<p>本研究は、本格的稼働を始めたアタカマ大型ミリ波サブミリ波干渉計（ALMA）を使い、星形成領域や原始星を化学組成の違いに注目して観測し、惑星系形成における物理的状況と物質進化を明らかにしようとするものである。また、分子線の実験室での測定はALMAのバンド7に対応させており、具体的で独自性のある研究計画である。</p> <p>本研究の計画では、応募者のこれまでの研究実績を基盤としてよく練られた観測戦略が立てられており、ALMAによる観測時間も既に確保されている。本研究によって、太陽系をはじめとした惑星系形成の理解を大きく進展させる確実な研究成果が期待できる。</p>